

施策評価シート

施策等名称	神長官守矢史料館の充実	体系番号	0201020105
		主管課	文化財課

1 施策基本情報

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を取り巻く社会環境は、急激な変化を遂げており、市民の学習要求の多様化・高度化に対応し、様々な地域課題や生活課題を解決するために、社会教育の重要性は高まっている。</li> <li>・更なる学習の充実を進め、「ひとづくり」を積極的に推進するとともに、地域・学校・行政の連携による推進体制の整備が望まれている。</li> <li>・学習ニーズを的確に把握し、市民の生涯にわたる自主的な学習活動活性化するよう、様々な学習機会の提供や内容の充実、推進体制の整備が求められている。</li> </ul>
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	神長官守矢史料館に伝わる歴史的な資料を後世に残し伝えるとともに、守矢家資料の調査研究を深め、資料の価値を広く発信していく。

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値
				2027年度目標値
①	年間入館者数	年間入館者数(人)	11,493	11,000 12,000
②				
③				

施策の柱1	名称	守矢史料館事業の充実	主管課	文化財課			
	詳細	企画展を中心として、守矢文書の重要な史料の価値を広く発信し、また、守矢史料館の周辺の歴史的景観について案内することにより、より、諏訪地方の歴史的重要性を訴えていく。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	年間入館者数	年間入館者数(人)	11,493	11,000 12,000	1 守矢史料館運営事業 2 守矢史料館施設管理事業	実施 実施
	2				3 守矢史料館展示事業 4 守矢史料館史跡整備事業	実施 実施	
	3				5 6		
	基本政策間連携						
	施策の体系	名称		主管課			
		詳細					
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
		1				1	
		2				2	
		3				3	
						4	
						5	
					6		
基本政策間連携							
施策の柱3		名称		主管課			
		詳細					
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
		1				1	
		2				2	
	3				3		
					4		
					5		
					6		
	基本政策間連携						

施策等名称	神長官守矢史料館の充実	体系番号	0201020105
		主管課	文化財課

## 2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)					
<b>施策</b>	年間入館者数	11,493	11,183	11,412	7,036	7,514	12,141	11,373
1		11,000	101.66	103.75	63.96	68.31	110.37	103.39
変動要因等	2018年度	諏訪大社を中心とする信仰に対する世間の関心が高まっており、入館者が増加したと思われる。						
	2019年度	諏訪大社を中心とする信仰に対する世間の関心が高まっており、昨年度に引き続き入館者が増加したと思われる。						
	2020年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2か月の休館等により入館者数が低下したため。						
	2021年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館のため入館者数が減少したが、徐々に人の動きが見られ、微増となった。						
	2022年度	新型コロナウイルスの規制が撤廃され、人の動きが戻ってきた。また、御柱祭による観光客の増加もあり、開館以来最高の入館者数となった。						
	2023年度	アフターコロナにより、人々の行動範囲が広がり、コロナ前の水準まで入館者数が戻ってきた。						
<b>柱1</b>	年間入館者数	11,493	11,183	11,412	7,036	7,514	12,141	11,373
1		11,000	101.66	103.75	63.96	68.31	110.37	103.39
変動要因等	2018年度	諏訪大社を中心とする信仰に対する世間の関心が高まっており、入館者が増加したと思われる。						
	2019年度	諏訪大社を中心とする信仰に対する世間の関心が高まっており、昨年度に引き続き入館者が増加したと思われる。						
	2020年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2か月の休館等により入館者数が低下したため。						
	2021年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館のため入館者数が減少したが、徐々に人の動きが見られ、微増となった。						
	2022年度	新型コロナウイルスの規制が撤廃され、人の動きが戻ってきた。また、御柱祭による観光客の増加もあり、開館以来最高の入館者数となった。						
	2023年度	アフターコロナにより、人々の行動範囲が広がり、コロナ前の水準まで入館者数が戻ってきた。						

施策等名称	神長官守矢史料館の充実	体系番号	0201020105
		主管課	文化財課

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目	2018年(前年度比)		2019年(前年度比)		2020年(前年度比)		2021年(前年度比)		2022年(前年度比)		2018年~2023年(総括)		
	投資額	事業費(円)	6,858,338	7,816,952	1.14	6,869,604	0.88	8,349,874	1.22	8,723,271	1.04	9,014,097	1.03
うち一財(円)		5,504,058	6,482,172	1.18	6,145,704	0.95	7,641,944	1.24	7,086,621	0.93	7,652,527	1.08	
(2018年~2023年(総括)については2023年の実績を記載)	増減理由(一般財源前年度比±10%以上の場合に記載)												
進捗評価	おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		順調		順調		
総合評価	主な取組内容や成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展を年間3回開催した。企画展時にギャラリートークを開催し、企画展の内容をわかりやすく説明し、参加者が増加している。</li> <li>日常的に館の職員が常設展の展示解説を行っており、来館者の展示に対する理解を深めている。そして、リピーターが増えている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展を年間3回開催した。企画展時に各2回ギャラリートークを開催し、企画展の内容をわかりやすく説明し、企画展への参加者が増加した。</li> <li>日常的に館の職員が常設展の展示解説を行っており、来館者の展示に対する理解を深めている。そして、リピーターが増えている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展を年間2回開催した。1回の企画展とギャラリートークは、新型コロナウイルス感染症防止のため延期または中止とした。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展を年3回開催した。</li> <li>9月に新型コロナウイルスの感染拡大防止のため休館となったが、企画展の延長や、年度末の御柱展の開催により、若干入館者が増加した。</li> </ul>		(R4・総括評価共通) <ul style="list-style-type: none"> <li>企画展を年3回開催した。</li> <li>御柱祭の期間に合わせて企画展を開催し、入館者が増加した。</li> <li>新型コロナウイルスに対する規制が撤廃されたため、入館者数も増加した。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展を年間3回開催した。</li> <li>日常的に館の職員が常設展の展示解説を行っており、来館者の展示に対する理解を深めている。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画を行う職員が1人であり、八ヶ岳総合博物館の担当でもあるため、企画展以外のイベントが行いづらい。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>諏訪圏外からの来館者に比べ圏内の来館者が少ない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの流行により、積極的に集客しづらい状況にある。</li> <li>守矢邸の敷地の購入予算を計上していたが、土地所有者の同意をとることができなかった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの流行により、企画展以外のイベントが開催できない状況にある。</li> </ul>		(R4・総括評価共通) <ul style="list-style-type: none"> <li>諏訪圏外からの来館者に比べ圏内の来館者が少ない。</li> <li>開館から30年以上が経過し、補修箇所が増えてきている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>諏訪圏外からの来館者に比べ圏内の来館者が少ない。</li> <li>開館から30年以上が経過し、補修箇所が増えてきている。</li> </ul>	
改革・改善	改革・改善内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展については、従来通り行い、内容を、時節に応じたものを開催していく。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展については、従来通り行い、内容を、時節に応じたものを開催していく。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展については、従来通り行い、内容を、時節に応じたものを開催していく。</li> <li>引き続き、土地所有者と交渉を行う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展については、従来通り行い、内容を、時節に応じたものを開催していく。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展については、従来通り行い、内容を、時節に応じたものを開催していく。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展については、従来通り行い、内容を、時節に応じたものを開催していく。</li> <li>新型コロナウイルスの流行期間開催することができなかった企画展以外のイベント開催について検討する。</li> </ul>	
	施策の柱等の重点化	重点化する施策の柱	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>守矢史料館は、諏訪上社の神職を代々務めていた守矢家に伝わる古文書を収蔵する目的で設置された施設である。この収蔵する史料を未来永劫伝えていかなければならないが、資料の価値を発信し続けていかなければならないため。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>守矢史料館は、諏訪上社の神職を代々務めていた守矢家に伝わる古文書を収蔵する目的で設置された施設である。この収蔵する史料を未来永劫守り維持管理し伝えていかなければならないが、併せて広く資料の価値を発信し続けていくため。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>守矢史料館は、諏訪上社の神職を代々務めていた守矢家に伝わる古文書を収蔵する目的で設置された施設である。この収蔵する史料を未来永劫守り維持管理し伝えていかなければならないが、併せて広く資料の価値を発信し続けていくため。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>守矢史料館は、諏訪上社の神職を代々務めていた守矢家に伝わる古文書を収蔵する目的で設置された施設である。この収蔵する史料を未来永劫守り維持管理し伝えていかなければならないが、併せて広く資料の価値を発信し続けていくため。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>守矢史料館は、諏訪上社の神職を代々務めていた守矢家に伝わる古文書を収蔵する目的で設置された施設である。この収蔵する史料を未来永劫守り維持管理し伝えていかなければならないが、併せて広く資料の価値を発信し続けていくため。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>守矢史料館は、諏訪上社の神職を代々務めていた守矢家に伝わる古文書を収蔵する目的で設置された施設である。この収蔵する史料を未来永劫守り維持管理し伝えていかなければならないが、併せて広く資料の価値を発信し続けていくため。</li> </ul>		

作成担当者	柳川 英司	両角 勝元	柳川 英司	柳川 英司	柳川 英司	柳川 英司
最終評価責任者	平出 信次	北沢 政英	北沢政英	北沢 政英	上田 佳秋	上田 佳秋
最終評価年月日	2019年5月29日	2020年7月10日	2021年5月28日	2022年5月30日	2023年10月18日	2024年7月11日